

博士論文審査報告書

氏名	本田 淳子
学位の種類	博士（心理学）
学位記番号	院博甲第34号
授与機関	東京成徳大学
学位授与年月日	2026年3月23日
学位授与条件	学位規則第5条第2項及び第3項該当
学位論文題目	スクールカウンセラーの職業的困難と職業的発達の探索的研究 ーコンピテンシー構造モデルの構築を目指してー

1. 論文概要：（1）目的、（2）方法、（3）結果及び考察

（1）目的

本研究の目的は、スクールカウンセラーが職務遂行の過程で遭遇する職業的困難とその克服プロセス、職業的発達の過程において獲得される能力、それらを統合したスクールカウンセラーのコンピテンシー構造モデルの構築である。

（2）研究Ⅰ

研究Ⅰでは、1945年以降の学校教育における相談業務の展開について明らかにすることを目的として、23本の論文と行政資料をレビューした。その結果1995年のスクールカウンセラー活用事業開始以降、スクールカウンセラーの制度化と役割期待が拡大してきたことが明らかになった。その過程において、「チーム学校」の推進や公認心理師制度の創設が、スクールカウンセラーの専門性および勤務形態の変容（非常勤から常勤化）に影響を与えていることが示された。

（3）研究Ⅱ

研究Ⅱでは、スクールカウンセラーが遭遇する職業的困難の構造と克服する過程を明らかにすることを目的として、24名のスクールカウンセラーへのインタビューを行い、分析を行った。その結果、困難の内容は経験年数によって異なる特徴を示し、スクールカウンセラーは必ずしも体系的な教育や研修を通してではなく、現場で偶発的に生起する困難への対処を通じて、必要なスキルを獲得していることが明らかとなった。

（4）研究Ⅲ

研究Ⅲでは、スクールカウンセラーの職業的発達過程において、獲得される能力、および経験の蓄積に伴って段階的に専門的能力が形成される過程を明らかにすることを目的として、研究Ⅱと同じ24名を対象にインタビューを行い分析した。その結果、スクールカウンセラーの能力は、単なる経験年数の増加ではなく、実践における省察や成功・失敗体験の蓄積を通じて発達するものであり、SCの職業的発達を捉える指標として位置づけられることが明らかになった。

（5）研究Ⅳ

研究Ⅳでは、スクールカウンセラーのコンピテンシー構造モデルを試作することを目的として、研究Ⅱおよび研究Ⅲから得られた24名のスクールカウンセラーのインタビューの結果と概念を統合した。本モデルは、スクールカウンセラーが遭遇する困難と能力獲得が相互に関連しながら

職業的発達が進捗するという循環的構造を示している点が示された。コンピテンシーの獲得順序には個人差が認められたものの、年齢や社会人経験の有無にかかわらず、各発達段階において共通するコンピテンシーが形成されることが明らかとなった。さらにスクールカウンセラーの経験年齢によるコンピテンシー獲得の振り返り（インタビュー結果）の特徴を検討した。

2. 評 価：

公認心理師等心理職の職業的発達についての研究が少しずつ発表されるなか、スクールカウンセラーの職業的発達に関する研究はきわめて少ない。本研究の意義は、24名のスクールカウンセラーのインタビューから、スクールカウンセラーの職業的発達を、職業的困難への対処を通じた能力獲得プロセスとして理論化し、コンピテンシー構造モデルとして提示した点にある。これにより、これまで断片的に論じられてきたスクールカウンセラーの専門性形成を、発達のかつ構造的に理解する枠組みを提供した。一方、本研究は限られた対象者による質的研究であり、理論的飽和に至る十分なデータ量とは言い難いという限界を有する。相対的には本研究は博士論文のレベルに達していると評価された。

3. 最終試験結果：

2026年2月4日、公開において、論文提出者より報告を受け、質疑応答が行われた。その結果、最終試験に合格と判断された。

4. 結 論：

論文審査と最終試験結果の評価に基づいて、本論文は博士の学位に値すると判断された。

2026年2月18日

	〈 所 属 ・ 職 名 〉	〈 氏 名 〉
主 査	東京成徳大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻 教授	西村 昭徳
副 査	東京成徳大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻 教授	井上 忠典
副 査	東京成徳大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻 特任教授	石隈 利紀
副 査	一般社団法人スクールセーフティネット・リサーチセンター 代表理事	田村 節子